NIE実践報告

1．タイトル：**人権と共生社会**

2．学校名

山形県鶴岡市立鶴岡第一中学校

3．実践者名（代表者名）

山本士郎

4．学年

第2・3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会・公民　40人

6．単元（本時の学習課題）名

「新聞記事にもの申す」　～未成年者の犯罪における「保護」と「報道の自由」～

7．目標（狙い）

同じ記事に対する2紙の扱い方の違いに対して、自分の立場と理由を明確にして討論し、互いの考えに触れる。

8．評価の視点

自分の立場と理由を主張できたか。また、相手方の考えを理解したり、それに対する意見を述べられたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第2章「人間の尊重と日本国憲法（東京書籍：7時間扱い）」の発展的題材として8時間目に実施

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

＜授業（本時）の流れ＞
①事件の概要の説明（知っているか・どこで起こったか・どんな事件か等、生徒の口から出させる）
②この事件についての報道の違いを、2紙「毎日新聞（匿名報道）」と「読売新聞（実名報道）」を読み比べて見つけさせる
③学習プリントに読み取ったことと、自分の考えを記入させる
a）同じ事件に対する2紙の報道内容で違うところ
b）自分が賛同できるのはどちらの報道の仕方か、またそれはなぜかを記入する
④この事件の報道のあり方として、どちらの方が相応しいのか、2つの立場に分かれて討論する
⑤（結論は出さず）討論の中から得たことを短い感想文にし、本時のまとめとして述べ合う

（留意事項）
討論の前、感想発表の前に十分時間をとり、手元に準備させた上で話しやすくする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

【毎日派】被害者や関係者には分かっており、全国に知らせる必要はなく、加害者の身内が辛い思いをする
【読売派】19歳という年齢は自立している年だと思うし、記事中の「おことわり」に納得できるから　等々

12．成果と課題

○読み比べる視点を知り、複数の新聞を開く楽しみを覚えた。それによって、一面的な見方だけでなく、多面的に物事を見たり考えたりしようとする生徒が多くなった。
▲せっかく多くの新聞があるので、もっと新聞を使った生徒主体の参加場面を増やしたかった。
（例えば、委員会主催の「時事検定」や「記事コンテスト」など）